

地域と出会い、人と出会う、まちづくりの仕事

川口 良子（1981 年度修了 （株）川口建築都市設計事務所専務取締役）

静岡市で、建築設計と静岡県内をフィールドとした地域密着型のまちづくりコンサルタントの仕事をしている。学生結婚した私は、大学院修了後、夫の兄が経営する設計事務所に入った。子供を育て、途中、親の介護が加わったりしながら、その時、その場で必要とされる役割を、家事、仕事の別なく、自分なりにこなしてきた。結構忙しくて「いやー参ったな」と時々思ったりしながらも、気が付くと、およそ30年がたとうしている。子供たちは独立し、建築の設計と併行して、「まちづくり」というやっかいではあるが、興味深い仕事に携わりつつ毎日を過ごしている。日々是好日である。

まちづくりの仕事といっても、「それ何？」と思われる人も多いかもしれない。それもそのはず、「まちづくり」に明確な定義はない。都市計画事業や街路事業など、まさに「街」をつくるハード事業を示していた時代を経て、最近では、ハード、ソフトの別なく、地域や暮らしに関するあらゆる事業や活動で、その時々文脈に応じて、便利に使われる言葉である。ただし、悪意の場面で語られることは無く、地域の環境、暮らしを良い方向へもっていこうとする意志を表す場面で使われる。私自身は、人と人との関係作りや地域を良くする意識が根底にある「行動」は、広く「まちづくり」だと捉えている。そして、まちづくりは「現場：課題の所在」とそこでの「行動、実践」があって成立する。

では、その「まちづくり」を仕事にすると、どういうことなのか？まちづくりの主役である住民の行動、実践の支援役として、その現場（課題解決）に必要な様々な知識、技術、知恵を適宜、適切に提供していくことである。さらに、時として、その現場そのものを興していくことにも取り組む。地域は千差万別、地域をみつめ、そこで出会った人たちと対話し、オーダーメイドで地域を良くする方策を共に考え、その活動、実践を手伝う。

まちづくりに携わるきっかけは、地域おこし施設の設計や商店街の修景整備等、地域を元気にすることを目的としたものづくりの仕事である。この種の仕事をしていて気がついた。施設ができ、街なみがきれいになっただけでは、地域は元気にならない。しかし、こうした地域での意志決定が求められるものづくりのプロセスは、まちづくりの格好の機会、場となりえることを。施設やまちなみという具体的対象を考える場を利用して、ワークショップ等を活用し、まちづくりの意識づくりや事興しに試行錯誤しつつ取り組んだ。そして、様々な出会いや機会に恵まれ、徐々にまちづくりそのものが仕事となっていった。その時、その場で自分なりに必要だと感じた役割をこなしていくうちに、幸運にも興味深い仕事へとつながった。地方都市の設計事務所では比較的自由に行動できる立場だからこそできたことだろう。こんな仕事のやり方や自分の役割があることに感謝である。



小学校での公園づくりについてのワークショップ